

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: osk_CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	国立循環器病研究センター移転建物	階数	地上10F
建設地	大阪府吹田市岸部新町24番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,582 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2016年6月20日
敷地面積	30,585 m ²	作成者	鍋谷めぐみ
建築面積	18,839 m ²	確認日	2016年7月15日
延床面積	129,592 m ²	確認者	鍋谷めぐみ



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 「室内環境」、「サービス性能」など建築物の環境品質に配慮しながら、高い「エネルギー」性能を実現している。同時に「資源・マテリアル」、「敷地外環境」など建築物の環境負荷を抑えるとともに、敷地内の豊かな「室外環境」を実現している。		その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 JR沿線の敷地のため、遮音性の高いT2サッシを採用。高い外皮性能や適切な温湿度条件により快適な温熱空間を確保している。病室は高い昼光率を確保、全館ともグレア制御や照明制御に配慮している。また十分な換気量を確保	Q2 サービス性能 十分な広さや天井高、リフレッシュスペースを確保することで快適で使いやすい空間としている。また、免震構造を採用、災害時に備え各種設備の信頼性向上にも努めている。終日使用する建物用途であるため、設備の更新性や	Q3 室外環境(敷地内) 立地特性を把握し、適切な緑の量と質を確保しながら、街並みに調和する良好な景観を形成している。また建物内外を連関させる中間領域を確保、地域への空間提供もしている。風向を把握し、適切な配置形状、緑地の確保、保水
LR1 エネルギー BPI=0.87, BEI=0.69と高い外皮性能及びエネルギー消費性能を実現している。また、中央監視盤にてエネルギー消費の内訳を分析できるほか、システム性能評価も可能である。運用管理組織、体制、管理方針、責任者が定められ、目標値が建築主に提出されている。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓・節水便器を採用、雨水利用率20%以上で節水に配慮している。基準強度の高い躯体材料を使用、免震構造を採用し、材料使用量の削減にも配慮している。躯体材料以外のリサイクル材や、再利用可能なスチールバーテーションを採用。有害物質を含まない接着材、シーリング、木部	LR3 敷地外環境 Nox、煤塵排出濃度を基準値の90%以下とし大気汚染防止に配慮している。自転車置場の確保・適切な駐車場・荷捌き用駐車場・駐車場導入口により、交通負荷抑制に努めている。その他、廃棄物抑制、光害対策ガイドラインの一部及び、広告物照明ガイドラインの過半を満たすことで光害

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム 2015年版

大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H28-0071

Osakafu-新築・既存 2015V1.03

【建物概要】	建物名称	国立循環器病研究センター移転建替整備事業					
	建設地	大阪府吹田市岸部新町24番					
	用途/区分	病院 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					S	
	CO2削減					4	
	省エネ対策					4	
	みどり・ヒート アイランド対策					4	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	○	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					報告しない	

【評価項目】				
省エネルギー対策		① CO2削減		
		② 省エネ対策		
項目	評価内容	スコア	評価	
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.1	4	
② 省エネ 対策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価	建物全体 5.0 住戸・宿泊 4.0	4
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.3	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	4.0	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価	4.5	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価	4.2	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策		
項目	評価内容	スコア	評価	
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	4.0	4	
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0		
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0		
その他				
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項		
	ブラインチラー排熱による暖房	排熱回収ブラインチラーの排熱を暖房に有効利用		
	井水熱源ヒートポンプチラー採用	年間一定温度の井水を未利用エネルギーとして有効利用		
	給湯・温水のカスケード利用	給湯還を空調用温水熱交換器の一次側でカスケード利用		
特に配慮した事項				